大原中だより

校　　訓　「歴史を拓く」

学校教育目標　はつらつとした生徒、地域に輝く学校

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：https://ohara-j.saitama-city.ed.jp/

さいたま市立大原中学校
TEL 048-831-5397
FAX 048-835-1357

第　8　号
令和５年１２月１日

自分の発する言葉を大切にすれば、自分自身の幸せにつながる

校長　岡　村　　洋　彦

木枯らしが吹きすさぶ季節がやってきました。８月２９日にスタートした２学期も、あと３週間ほどとなりました。

この２学期を振り返りますと、体育祭、校内合唱コンクール、１年校外学習をはじめとする様々な行事では、地域の皆様、保護者の皆様の御協力を得て、子どもたちのがんばっている姿を皆様に見ていただきました。一つひとつの行事を通して子どもたちの更なるがんばりにつながっていったことが、大きな成果だと感じています。あらためて感謝申し上げます。

ところで先日、日米それぞれのプロ野球で大活躍した松井秀喜さんについての本を読んでいたら次のような文がありました。

心	が変われば	行動	が変わる
行動	が変われば	習慣	が変わる
習慣	が変われば	人格	が変わる
人格	が変われば	運命	が変わる

「心が変われば」最後に「運命が変わる」と言っているわけですが、では「心が変わる」ためにはどうすればいいのでしょうか。

心は目には見えませんが、言葉や表情を通して、心の動きはわかります。

言葉には、人を認め、心を育てる言葉（ポジティブな言葉）と、人を批判し、心を傷つける言葉（ネガティブな言葉）があります。

金子 みすゞさんの詩に「こだまでしょうか」があります。

こだまでしょうか
「遊ぼう」っていうと
「遊ぼう」っていう。
「ばか」っていうと
「ばか」っていう。
「もう遊ばない」っていうと
「遊ばない」っていう。
そうして、あとで
さみしくなって、
「ごめんね」っていうと
「ごめんね」っていう。

ネガティブな言葉を使うと消極的、否定的な感情が湧きやすく、ポジティブな言葉を使うと積極的、肯定的な感情が湧くものです。

温かく、認め励ましてくれる言葉や言葉づかいの中で育った子どもは、相手に対しても優しく、思いやる言葉を発することができ、人に愛され、人とのかかわりも豊かになることでしょう。そして、美しい言葉づかいは、社会に出たときに周囲から信頼を得ることにつながります。

このように考えていくと、「心を変える」には、まず自分自身の「言葉や言葉づかいから」ということになります。御家庭でも「心」「言葉」の大切さについて触れていただければ幸いです。

残り少ない卯年。卯年は、芽をだした植物が成長していき茎や葉が大きくなる時期で、目に見えて大きく成長する年だといわれています。「終わりよければ…」という言葉がありますが、成長できた一年だったと生徒自身が感じるようにするため、家庭、地域、学校相互の協力関係が大切だと思っております。

少々早いですが、よいお年をお迎えください。また来年も引き続きご理解・ご協力をお願いいたします。